

《担当者名》 近藤里美 skondo@hoku-iryo-u.ac.jp 下出理恵子

【概要】

音楽理論、ソルフェージュ、器楽、合唱、伴奏法、アンサンブルで学んだ知識をもとに、音楽を療法的に用いるために必要な即興演奏の知識と技能を習得する。

【学修目標】

実際の音楽療法場面に適用できる即興演奏の基本的知識を理解し、実際に用いる基本的技能を習得する。

1. 治療目的に応じた即興演奏に使用する音楽の要素を理解する。
2. 治療場面での即興演奏の目的、方法、効果を説明できる。
3. 治療場面で用いる基本的な即興演奏ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義の進め方、概要、評価の説明	近藤里美 下出理恵子
2) 5	即興演奏に使う音楽要素	・即興演奏に活用する音楽要素の整理：音楽理論、ソルフェージュ、器楽、合奏、伴奏法、アンサンブルで学習した知識と技能の整理	近藤里美 下出理恵子
6) 10	即興演奏に使う音楽要素	・即興演奏に活用する音楽要素の整理：音楽理論、ソルフェージュ、器楽、合奏、伴奏法、アンサンブルで学習した知識と技能の整理	近藤里美 下出理恵子
11) 15	即興演奏の実際	・身体運動に伴う即興演奏の活用 ・音素材、リズム、楽器操作性を用いた即興演奏の練習	近藤里美 下出理恵子
16) 20	即興演奏の実際	・認知的な活動に伴う即興演奏の活用 ・音素材、リズム、楽器操作性を用いた即興演奏の練習	近藤里美 下出理恵子
21) 25	即興演奏の実際	・心理的な側面に伴う即興演奏の活用 ・音素材、リズム、楽器操作性を用いた即興演奏の練習	近藤里美 下出理恵子
26) 29	即興演奏の実際	・社会的活動に伴う即興演奏の活用 ・音素材、リズム、楽器操作性を用いた即興演奏の練習	近藤里美 下出理恵子
30	まとめ	・音楽療法に活用するための即興演奏の特徴の整理 ・各自の課題の抽出と整理	近藤里美 下出理恵子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

平常点50%、授業内で行う技能達成確認テスト50%

【教科書】

必要に応じて講義時に資料を随時配布する。

【参考書】

菅田文子 「音楽療法で使う即興・伴奏・作曲」 あおぞら音楽社 2013年

【備考】

- ・実際の体験を通じて習得する知識と技能を重視するため、積極的に参加すること。

・即興演奏のアイデアの作成や練習、および復習に十分な時間(80分以上)を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

近藤里美（音楽療法士） 下出理恵子（音楽療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関および介護保健施設での実務経験を活かし、担当の演習を行う。